

H^{OSTELLING} Magazine

COVER INTERVIEW

ガンバレルーヤ

挑戦できることがあるって、
幸せなこと!



この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





いつでも、どこでも、
おいしいは
あきらめない。

おいしいね、便利だね
Smartランチ
ランチパック

森三中・大島美幸、ガンバレルーヤ（よしこ、まひる）によるユニット



Miyuki



yoshiko



Mahiru



マイムー

あ そ ぼ う ぜ

MyM "ASOBOZE"

Lyric : MyM / Music : Matt Cab, MATZ, ずま / Produced by Matt Cab, MATZ

NOW ON SALE

「心に残る」

「美味しい」

「音楽」

MyM means M = Memento, y = Yummy, M = Music.



楽曲制作の様子はYouTube「大島本気チャンネル」にて公開中

STARBASE RECORDS

日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟 (Hostelling International) や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

子どもはおとなに。
おとなは子どもに、
なれる場所。



02	Cover Interview ガンバレルーヤ 挑戦できることがあるって、 幸せなこと！
08	Youth Hostel Pick up 屈斜路原野ユースゲストハウス ひがし北海道の大自然に身を預け 心洗われる「癒しの宿」
12	Hostelling Magazine × 地球の歩き方 紅葉に彩られる カナダ東部のフレンチタウン
16	鉄道写真家 櫻井 寛「列車で行こう！」
18	松島むうの晴れときどき旅びより
20	YH-GUIDE ユースホステルガイド 福島県 / 栃木県 / 群馬県 / 千葉県 / 東京都 神奈川県 / 山梨県 / 新潟県 / 富山県 / 石川県 / 長野県

※本誌の情報は2024年9月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島 眞
TEL (03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



挑戦できることがあるって、
幸せなこと！

Hostelling Magazine Cover Interview

Ganbareruya

PROFILE |

お笑いコンビ

ガンバレルーヤ

2012年結成。吉本興業所属。よしこ(左)愛知県出身。まひる(右)鳥取県出身。「世界の果てまでイッテQ!」(日本テレビ)など数多くのバラエティ番組へ出演。体を張った芸と、仲のよさが伝わるほんわかトークが老若男女から大人気。ラジオ、YouTubeにも活躍の場を広げている。2023年1月よりまひるの地元、鳥取県大山町の観光大使に就任。2024年5月、森三中大島とのコラボユニット「MyM」で楽曲リリース。デビュー曲「ASOBOZE」では作詞やラップにも挑戦するなど、バラエティ以外の才能にも注目が集まっている。



**食わず嫌いはもったいない！
海外ロケは未知の経験の連続**

—世界中を飛び回っているお二人が、これまでに訪れた場所の中で特に印象に残っている場所はどこですか？

よしこ：印象深かった場所は5年ほど前に行ったオーストラリアです！先住民のアボリジニの方々の暮らしを体験するという番組のロケに伺ったときに、現地の方が木に付いている男性の中指ぐらいの大きさのイモムシを取って「これがアボリジニにとっては普通なんだよ」と、生きたまま食べていたんです。私も子どもの頃から蜂の子を食べたりしていたので、苦手ではなかったんですけど「生きたまま」というのは初めての経験で…。でも食べてみたらめっちゃおいしくて！口に入れた瞬間、中身がトロっとまるで卵の黄身のように…。生臭さや虫臭さなんて一切ない、上質な美容液を食べているような感覚なんです。バラエティ番組で昆虫を食べるときって「うえ～！食べたくない！」みたいなリアクションを期待されるんですけど、おいしすぎていい言葉しか出てきませんでした(笑)。

まひる：他にもインドネシアでミズオオトカゲっていう全長2mぐらいのトカゲを捕まえて丸焼きにして食べたり、タイではフンコロガシが転がしているフンの中にいる幼虫を茹でて食べるもしたよね。

よしこ：あれはびっくりしたよねえ。あと、タイで大きなネズミの姿焼きも食べたね！

まひる：でも、どれも食べてみたらおいしいんだよね(笑)。私たち、普通のごはんよりも「ゲテモノ」といわれるような料理のほうがスラスラと言葉が出てきて流暢な食リポができるんです(笑)。

—どんなことでも試してみるというのは大切ですね！

まひる：何事も食わず嫌いをするのはもったいないって思います！

よしこ：現地の人が食べてるってことは、それだけおいしいってことだもんね。

まひる：私はこの前行ったモンゴルが印象深いです！モンゴルにはゴビ砂漠というすごく大きい砂漠があって、そこに向かうために町から車で15時間ぐらいかけて移動していたんです。砂漠に近づくにつれて周りには何もなくなって、途中でトイレに行きたくなくてももちろんトイレなんてないから、もう大自然の中でするしかなくて…。車を降りて少しでも隠れられる場所を探したものの、そこら中に野生の馬やラクダや牛やガゼルが

いて、1人になれない…。もう仕方ないから野生の動物たちに囲まれながら、彼らと目が合った状態で用を足しました(笑)。最初は怖かったんですけど、みんな大草原の中で自由に暮らしてるからか、すごいびのびしてて、私のことなんて全然気にしていないんですよ。それがすごく新鮮で、原始的でおいしい体験でしたね。今までで一番爽快感があって気持ち良かったです(笑)。

—どの思い出もスケールが大きい(笑)。旅の楽しみのひとつに、旅先での出会いもあるかと思うのですが、お二人の「旅先での忘れられない出会い」についてもお話を聞かせてください！

よしこ：私はイギリスで出会った「絶対に笑わない女」という人かな。「生まれて一度も笑ったことがない。子どもを産んだときも笑わなかった」という人を笑わせる企画で、その人の家に伺ったんです。

まひる：「笑いじわを作りたくないから笑わない」という、美意識が高い人だったね。

よしこ：そうそう！確かにお会いすると「きっと、一回も笑ったことないんだらうな」というようなお肌がツルツルの方だったんです。その企画では、その「絶対に笑わない女」に牛乳を含んでもらって、お笑い芸人たちが彼女を笑わせようとするんですけど、本当に全然笑わなくて…。でも、私がアンジェリーナ・ジョリーの顔まねをしたら、その人の口元からツーンって牛乳が(笑)。嬉しかったですねー！

まひる：フィンランドの現地コーディネーターさんとの出会いも忘れられない(笑)。凍った湖の上で飛び石渡りとか、クレイジーなアクティビティを開発しているマルクっていうコーディネーターがいるんです。初めてお会いしたときに、手と足を骨折した状態で「よろしく!!」って言われて(笑)。

よしこ：片腕を骨折してるから顔半分ヒゲが剃れてない状態で(笑)。

まひる：怖かったよね！「とんでもない現場に来ちゃった…」って。

**お笑い芸人を目指すべきかけと
運命の相方との出会い**

—Hostelling Magazineは学生の読者の方が多いフリーペーパーなのですが、お二人はどんな学生でしたか？よしこさんは愛知出身、まひるさんは鳥取出身ですよ。

よしこ：私は通っていたとき中学校の学校一のヤンキーに恋す



Ganbareruya

る学生時代でした(笑)。その男の子は朝登校してくるときにいつも鉄パイプを持って、それを見て「なんてカッコいいんだ！」と思ってました…。

まひる：私は小・中学校では野球部、高校ではソフトボール部に入っていたスポーツ少女でした。男の子たちの中に女の子1人混じって遊ぶような、活発な子でしたね。生まれ育ったのが鳥取県の田舎町ってこともあって、何をしても大自然の中。木登りや登山をしたり、夏には海に行ったり。水泳の授業も海でやっていました。そういう経験を子どもの頃から経験させてもらったのが、今の仕事にも活かしていると思います。

よしこ：そういう自然の中で育てる子がいっぱいいるから、まーちゃん(まひる)の地元って純粋な子ばかりなんです。以前まーちゃんの地元でロケをしたとき、まーちゃんと同じクラスだった子に「まーちゃんの中学校のときの暴露話ってある？」って聞いたら「これ言っているのかな…？大丈夫かな…。実は、まーちゃん、放課後校舎の裏で側転しました…」って。もう、かわいすぎません(笑)?!そしたら、その子とまーちゃんが二人で「懐かしいな～」って言いながら側転しだしちゃって！な～って純粋な子たちなんだろうって思いましたね。

—アニメの世界のような、のびのびとした学生生活だったんですね！まひるさんの通っていた学校には、よしこさんが憧れるようなヤンキーはいなかったんですか？

まひる：う～ん…ガムを噛んでる子とかはいましたけど。

—かわいい(笑)。ちなみに、お二人が学生のときの旅の思い出はありますか？

まひる：私の通っていた中学校は、中学3年生の夏休みに韓国がアメリカのどちらかに行っていたんです。私たちの年代は韓国で、1週間ぐらいホームステイをしながら「韓国は食器やお箸が金属なんだ」とか「日本ではお茶碗を持って食べるけど韓国では失礼なんだ」とか、初めて文化の違いに触れて「こんなに近い国でも文化が違うんだ」とってカルチャーショックを受けた記憶があります。

よしこ：中学で海外に行ってるってすごいね！

まひる：小学生のときも夏休みには沖縄のお家にホームステイさせてもらって、逆に冬は沖縄の子が私のお家に1週間ほどホームステイをして…といういろんな体験をさせてもらえる地域だったの。

よしこ：えー、すごい学校だなあ。私は家族旅行で年に1回行ってた、北陸旅行が印象に残ってるかな。毎年同じお宿に泊まるんですけど、初めて行ったときに泊まったのが長寿双子で有名な「きんさんぎんさん」が泊まったお部屋だったんです！なんか部屋の中にすごいでかい岩があったのを覚える(笑)。ちなみに、その部屋に泊まった恩恵か、私のおじいちゃんは今

101歳なんですよ！

—お二人は、どんなきっかけでお笑い芸人という同じ道を目指すことになったんですか？

よしこ：私は小学生の頃にテレビで明石家さんまさんを見て「こんな人になりたい！」と思ったのがきっかけでした。生まれたときから極度の恥ずかしがり屋で「そんな自分を変えたい」とずっと思っていたんです。学校のクラスでも「はいはい！」って積極的に手を挙げて喋る人を見て憧れていたくらい。さんまさん

で恥ずかしがり屋の対極にいる人じゃないですか(笑)。さんまさんみたいな芸人になれば、自分を変えられるかもしれないと思って、お笑い芸人を夢見るようになりました。

まひる：私は元々『世界の果てまでイッテQ!』が大好きで、珍獣ハンターとして活躍されているイモトアヤコさんとは地元が一緒だったんです。中学校の数学の先生が、実はイモトさんを教えていた先生だったというご縁もあって。イモトさんは当時から地元鳥取県の大スターで、その先生から学生時代のイモトさんのお話を聞いているうちに、自分も『イッテQ!』に出たいという気持ちがどんどん強くなって、お笑い芸人を志すようになりました。それともうひとつ『志村けんのパカ殿様』が大好きで、この2つの番組にいつか出演したいという夢がありました！

よしこ：まーちゃんはこの2つの夢を叶えて、両方の番組に出られたんですよ！すごいですよね。

—憧れていた番組に出演するなんて、本当にすごいです！そんなお二人がコンビを結成するきっかけは何だったんでしょうか？

よしこ：大阪にある吉本興業の養成所に入るために愛知から引越したマンションが、まーちゃんとたまたま一緒だったんだよね。

まひる：そうです。私は初めての一人暮らしの緊張からか便秘で苦しくなってしまうと、マンションのエレベーターでうずくまっていたら、よっちゃん(よしこ)が乗ってきて「大丈夫ですか？」って声をかけてくれて。その後、私の部屋に便秘に効くからってきんぴらごぼうを作って持ってきてくれて。それがきっかけですごく仲良くなったんです。

よしこ：でも、きんぴらごぼうを持っていったとき、ドアをノックしたら居留守を使われました(笑)。警戒されていましたね…。でも、そこからは仲良くなって、ずっと一緒に住んでいます！

—お仕事でもプライベートでもいつも一緒だと「1人になりたい！」と思うことはないですか？

まひる：もうコンビを超えて家族みたいな感覚なんです。「一緒にいるのが当たり前」みたいな。だからお互い結婚するまでは、ずっと一緒にいるんだろうな、と思ってます。私の夢は、将来お互い結婚して、同い年の子どもを産んで、同じ幼稚園、小学校に通ってママ友でもあり、親友でもあり、家族でもあって…隣同士に家を建てて、1階をぶち抜いて廊下をつなげて…。

よしこ：壁をぶち抜かれるのは嫌だよ(笑)！同じ団地に住むぐらゐの距離感だったらいいけど。

「挑戦できることがある幸せ」を実感するお笑い芸人としての生活

—お二人がお笑い芸人としてのキャリアを歩む中で、大変だった時期はありましたか？

まひる：上京したての頃にたまたま出演した番組のレギュラーになることができたんですけど、最初から出し切っちゃった感があって。何を武器に戦っていったらいいのか悩んだ時期がありました。私たちはボケとツッコミがはっきりしているコンビではなくて、“仲の良さ”と“顔芸”だけで勝負していたので…。でも、そのとき宮川大輔さんから「ボケとかツッコミのスペシャリストはいっぱいいるけど、2人にしか出せないこの雰囲気は唯一無二だよ」って言葉をかけてもらって、すごく楽になったんです。

よしこ：私たちは本当に周りの人に恵まれていて、たむらけんじさんやダイアンの津田さん、バスケットブラザーズのきんさんとか、いろんな先輩が温かい言葉をかけてくれるんです。

—2024年5月には森三中の大島さんと一緒に音楽ユニット「MyM(マイム)」を結成されて、配信シングル『ASOBOZE』でデビューもされましたね！

まひる：森三中さんは子どもの頃から好きだったので、お仕事で一緒するようになった今でもふとしたときに「あれ？何で今、私の隣に森三中の大島さんがいるんだろう？？」って思うことがあります(笑)。

よしこ：以前大島さんのYouTubeチャンネルで歌わせていただいたときの動画をレコード会社の方が見てくださって、声をかけていただいたのがきっかけでした。実はこのオファーがくる前から、まーちゃんは「3人でデビューしましょうね！」って大島さんにずっと言っていたんですよ。

—夢や希望を声に出していると思慮と応援してくれる人が集まったり、サポートしてくれる人が現れたりってありますよね！

まひる：そうなんですよ！私は上京したてのとき、出る番組出る番組で「『イッテQ!』に出たいです！」って言い続けていたんです。そのときにダイアンの津田さんが「言葉ってあるから、やりたいことは言い続けなアカんで！」って言ってくださって。口に出したら夢や目標は叶うっていうのを信じて、言い続けるよ

うにしているんです。

—私もどんどん夢を声に出すようにしよう…。お二人はお仕事をしている中でどんなときに「楽しい！」と感じますか？

まひる：ありがたいことに、番組の企画で何かに挑戦させていただく機会がすごく多いんです。子どものときって、テストとか部活とか体育祭・文化祭とか、何かに向かって取り組む機会がありますけど、大人になるとそういう機会がどんどん減っていきますよね。でも、お笑い芸人のお仕事は、例えば一輪車をやってみたり、バンジージャンプに挑戦したり、いつも何かに挑戦できるんです。毎回「もう無理！」と思うけど、やり終えたときに「挑戦できることがある幸せ」を感じます。

よしこ：達成感がすごいよね！同行しているスタッフさんもずっと見守ってくれているので、達成したときはみんなで「よっしゃー！」って、喜んでくれるんです。

—最後に、これからお仕事でもプライベートでも、行きたい国、やってみたいことを教えてください！

まひる：スペインに行きたいです！行ったことのある方々が口々に「とにかく料理がおいしい！」とおっしゃっているの。それに、よっちゃんは地中海料理が一番好きなんですよ。だから、よっちゃんに本場のパエリアを食べさせてあげたいんです。

よしこ：私はジョージアに行ってみよう！海外でのロケの合間にジョージア料理のレストランに行ったんですけど、どの料理もめっちゃくちゃおいしくて！特にハチャプリという、ツチノコみたいな形のパンの中央に窪みがあって、その窪みにチーズソースがたっぷり入っている料理。パンをちぎってチーズに浸けて食べるんですけど、これがとにかくおいしくて、本場のジョージア料理を食べてみたいなあ。

—お二人を旅に駆り立てるのは「食」なんですね！「絶景を見に行きたい！」というようなことはないですか？

まひる：絶景スポットにも行きたいですけど「絶景＝バンジージャンプ」みたいなイメージがついちゃって…。景色が綺麗になればなるほどドキドキしちゃう(笑)。

よしこ：崖があれば登られるし、登ったらバンジーで飛び降りさせられるもんね(笑)。



抽選で **ガンバレルーヤさん直筆サイン入り色紙1名様にプレゼント!**

ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用お申し込みフォームから！

<http://www.jyh.or.jp/hmq>

応募〆切: 2024年12月末日

※当選者にはご応募時に登録いただいたメールアドレス宛にご連絡いたします。
©jyh.or.jpからのメールが受信できるように設定をお願いいたします。



日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟 (Hostelling International) や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

こどもはおとなに。
おとなはこどもに、
なれる場所。



Hostelling Magazine vol.38



Cover Interview
ガンバレレーヤ
挑戦できることがあるって、
幸せなこと！

P.02



Youth Hostel Pick up
屈斜路原野
ユースゲストハウス
ひがし北海道の大自然に身を預け
心洗われる「癒しの宿」

P.08



Hostelling Magazine
× 地球の歩き方
紅葉に彩られる
カナダ東部のフレンチタウン

P.12



鉄道写真家 櫻井 寛
「列車で行こう！」

P.16



松島むうの
晴れときどき旅びより

P.18



YH-GUIDE
ユースホステルガイド
福島県 / 栃木県 / 群馬県
千葉県 / 東京都 / 神奈川県
山梨県 / 新潟県 / 富山県
石川県 / 長野県

P.20



Hostelling Magazine vol.38
まとめてダウンロード

※本誌の情報は2024年9月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島 真

TEL (03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。